

1 学校教育目標

○かんがえて ○めあてをもって ○たくましく 友だち思いの亀田の子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上に取り組む学校 ・心の教育に取り組む学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を掲げて取り組む学校 ・体力の向上に取り組む学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く学習する児童 ・友達を大切にする児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもって取り組む児童 ・健康づくりにはげむ児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・考える授業を展開する教師 ・一人一人を大切にする教師 	<ul style="list-style-type: none"> ・認め励まし伸ばす教師 ・子どもと共に汗を流す教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

令和4年度は全校で22学級とコミュニケーション教室「かがやき教室」の編成、全校児童数777名でスタートした。素直で、子供らしく、優れた能力をもつ児童が多い。そのため、落ち着いて、楽しく学習に取り組める環境である。

新型コロナ禍ではあるが、感染防止対策を講じて学校行事を可能な限り実施した。児童は意欲的に取り組み、生き生きと活動していた。

保護者・地域は学校に協力的であり、PTA、開かれた学校づくり協議会の活動が効率的に運営されている。

【前年度の成果と課題】

○学力の確実な向上

この4年間、授業改善やパワーアップタイム、放課後補充教室、ステップ学習等の学力向上の取組を組織的に取り組んできた。その成果が出てきている。令和4年度足立区学力定着度調査 目標通過率 国語 93.5% 算数 93.9% 2教科とも区の平均を10ポイント以上上回った。全国学力調査(6年生対象)でも全国の平均正答率を国語 15.1ポイント 算数 11.2ポイント上回った。今後も個の習熟度やつまずきに応じた指導や学力向上の取組を行い、全児童に基礎学力を確実に定着させるとともに、思考力、表現力、学びに向かう力を高めていく。

○豊かな心の育成

児童の自己肯定感・自尊感情を高めるために、自分の良さや友達の良さに気付き・認められる教育活動を重視してきた。また、教員の人権感覚を磨き、児童に寄り添った生活指導にも取り組んできた。昨年度は制限があるものの、自分が好きなこと・得意なこと(クラブ活動、課外クラブ活動、地域と連携したイベント等)に挑戦できる機会を設定することができた。「学校は楽しい」90%「自分が好き」79%「よいところ・得意なことがある」92%と自己肯定感・自尊感情が高まってきている。

○体力の向上

体力向上委員会が中心となり教員の体育指導力の向上研修、体育の授業改善に取り組んだ。また、夏休みの水泳、持久走、なわ跳び旬間等の体力向上の取組も方法を工夫して実施した。児童は楽しく運動に取り組むことができた。体力・運動能力調査では、83/96種目区の平均を超えた。全国と比較すると、64/96種目が平均以上。投力が課題となっている。今年度も継続して体力向上に取り組んでいく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	◎	◎	○	◎	○
3	健康な体づくり、体力の向上	◎	◎	◎	○	◎

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学力の定着 学びに向かう力の育成		区学力調査目標値通過率 85%以上 学期末テスト 全学年目標値通過率 80%以上		令和5年度区学力調査通過率 国語 95.4% 算数 95.2% 2教科 95.3% 学期末テスト目標値通過率 85%		区調査通過率が95%を超えた。 低、中学年ででの定着が確実にしている。 平均正答率は、85.8% 85%を超えた。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
継続	パワーアップ タイム	全児童 国語 算数	毎週 火、金 始業前 15分	【指導体制】担任 【ねらい・目的】 既習内容の復習・確認 【使用教材】 漢字、AIドリル、αドリル	1か月に1回、 ミニテスト	ミニテスト 正答率 80%以上 の児童 90%以上	読解力、計算力が向上 した。ミニテスト正答 率目標値を超えた。	算数はAIドリルを 活用。国語はαドリ ルを活用し、個に対 応できた。	◎
継続	放課後 補充教室	区調査 国語・算数 の正答率 70%未満 の児童 単元テス トの正答 率 70%未 満の児童	毎週 金曜日 放課後 20分 (教科 は個に 応じて)	【指導体制】 担任+専科+管理職 【ねらい・目的】 つまずきのさかのぼり 個別もしくは少人数指導 (進度は個で異なる) 【使用教材】 AIドリル プリント 次へのステップ 等	定着度確認 テスト 10月、2月 2回実施	国語 算数 定着確認テスト 10月 2月 対象児童が 正答率 70%以上	定着確認テスト 目標達成率 10月 91% 2月 88%	組織的な体制で取り 組めた。学習材も習 熟度に応じた内容と なった。	◎

継続	家庭学習習慣の定着	全児童	毎日	【ねらい・目的】 家庭学習習慣の定着。 学年に応じた目標時間設定 目標時間に定着した課題の提示。 提出できない児童は、その日のうちに課題に取り組ませる ※中、高学年には自学自習を奨励	宿題提出 状況調査 11月	宿題提出率 90%以上	宿題提出率 93.3%	提出率が昨年度より1.7ポイント下がった。しかし、自主学習に取り組む児童が増加した。	○
継続	ステップ学習	全児童 国語・算数	年30 時間 程度	【指導体制】 担任+専科+管理職 【ねらい・目的】 既習内容の復習や発展的内容に取り組む。 【使用教材】 A Iドリル プリント等	学期末テスト	学期末テスト 正答率 低学年 80%以上 中学年 80%以上 高学年 75%以上 の児童 80%以上	目標正答率通過 低…87% 中…80% 高…84%	組織的な体制で取り組めた。学習材も習熟度に応じたものになってきた。	◎
継続	I C T の効果的な活用	全学年 全教科・	通年	【指導体制】 全教員 【ねらい・目的】 授業や学力向上の取組においてI C Tを効果的に活用。 児童がクロームブック等を効果的に活用し、主体的に活用できる力を身に付けさせる。	児童、教員の 活用状況調査	・学年に応じたI C T操作に関わる技能を身に付ける 95%以上 ・I C Tを効果的に活用して学習できる児童 90%以上 ・A Iドリル活用 補充教室 毎回 家庭学習 毎日	学年に応じたI C T操作に関わる技能の定着 100%。 低学年でも全員が活用できている。 活用して学習 92.7% A Iドリル日常的活用 100%	授業でも家庭学習においてもI C Tを活用して学習に取り組んでいる。ドリル学習だけでなく、まとめや発表に活用されるようになった。	◎
継続	サマースクール	全学年 国語・算数 各学年 10 名程度	長期休業期間 10日間 1日45分	【指導体制】 担任+専科+管理職 【ねらい・目的】 当該学年の復習や過去の学年にさかのぼったつまずきの解消。 【使用教材】 補充プリント等	チャレンジスクール終了後 確認テスト	確認テスト 正答率 80%以上 つまずきを解消した児童 80%以上	つまずきを解消した児童 91%	担任、専科、管理職ボランティアで組織的な指導体制を整備した。 個の習熟度に応じた指導ができた。	◎

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感・自尊感情、規範意識を高める		自己肯定感に関する調査 全項目肯定的回答 85%以上	「学校は楽しい」 91% 「自分が好き」 81% 「よいところがある」 96%	自分が好き 81% 目標を達成できなかった。しかし、自己肯定感に関する意識が昨年度より高まった。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	「学校は楽しい」 自己評価 90%以上 「自分が好き」 自己評価 80%以上 「よいところがある」 自己評価 90%以上	・ふれあい月間の取組 年3回 ・道徳授業の充実 ・「自分の好きなこと」「自分が得意なこと」へ挑戦 クラブ、委員会活動の充実 ・課外スポーツクラブ 琴、尺八クラブ ダンスクラブ サッカー等	・ふれあい月間予定通り実施 ・道徳の授業公開、地区公開講座実施 「学校は楽しい」 91%(+1) 「自分が好き」 81%(+2) 「自分にはよいところ」 「得意なことがある」96%(+4) ・課外クラブ活動 バスケットクラブ 新規設定	少しずつであるが自己肯定感が高くなってきた。今後も、よさを認め、褒める指導を継続。自分の得意なこと、好きなことに挑戦できる機会を設定していく。	◎
心を育てる生活指導、特別活動の充実	生活規律に関する自己評価 肯定的評価 85%以上 保護者アンケート 肯定的評価 80%以上	・児童による挨拶運動の実施 ・縦割り班活動の充実 ・生活習慣調査の実施 ・QU調査の分析・活用	・挨拶運動、縦割り班活動計画通り実施 ・生活規律関しての肯定的評価 児童自己評価 88% 保護者、地域評価 93% ・QU調査の結果を全教員で確認	生活指導に関する取組や特別活動の充実により、規範意識が高まってきた。高学年が手本となっている。QU調査を有効に活用できた。	○
読書活動の充実	目標冊数・目標ページ 達成 90%以上	・読書旬間 年3回 ・読み聞かせ ・図書支援員と連携した 図書室の整備 ・本の貸し出し方法の改善 ・探究学習の推進	・読書旬間 3回実施 ・読み聞かせ 5月以降 実施 ・図書室は整備されている ・読書旬間 目標冊数・ページ数 85.9% ・探究学習で図書館が活用されるようになってきた	読書好きの児童が増えた。目標冊数ページ数を検討する必要がある。高学年になると家庭では、読書しない児童が多くなる傾向。	○

重点的な取組事項－3		健康な体づくり、体力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上を図る 規則正しい生活習慣の定着		運動が好き 85%以上 運動・体力調査 全種目区平均値以上 規則正しい生活習慣定着 80%以上	運動が好き 84% 体力調査 区平均以上 男子 43/48 女子 42/48 種目 規則正しい生活習慣定着 88%	体育の授業改善、体力向上のための取組が充実してきている。それが成果につながった。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力向上 健康な生活習慣の確立	運動が好き 85%以上 運動・体力調査 全種目区平均以上 早寝・早起等規則正しい生活習慣定着 児童、保護者評価 80%以上	・外遊び、家庭での運動奨励 ・全校体制による体力向上の取組の推進 ・体力調査の結果をもとにした授業改善 ・長期休業明け生活振り返り ・養護教諭・栄養教諭による健康・食育指導 ・家庭への働きかけ（保護者会、通信、HP）	・運動が好き 84% ・なわ跳び、持久走旬間の設定 ・体育指導実技研修 4回 ・体力調査 A、B 評価児童 61% ・早寝 早起き 83% 朝ごはん 94% ・食育・健康指導 全学年で実施 ・体力、健康に関する啓発 給食日より 保健日より	体力調査の結果をもとに授業改善、体力向上に取り組んできた成果がでてきている。家庭における基本的な生活習慣の定着と運動習慣の啓発に取り組んだ。食育が充実してきている。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・基礎学力が確実に定着してきた。自分の考えや意見を発表することに苦手意識をもっている児童が20%いる。話し合いの場の設定、表現方法の工夫に取り組んでいく必要がある。学力向上委員会を中心に表現力の育成に取り組んでいく。
- ・自己肯定感をさらに高めていきたい。一人一人のよさを認め、褒める指導、互いのよさに気付ける場の設定、好きなこと、得意なことに挑戦できる機会を多く設定し、児童の自己肯定感を高めていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度は感染防止の対策を講じながら、授業公開、運動会、音楽会を実施することができました。ようやく保護者・地域の皆様に、子供たちの学校での様子を実際に参観していただくことができました。また、行事や授業診断アンケートでは、肯定的評価、建設的かつ具体的なご意見を多数いただきました。ありがとうございました。頂いた評価、ご意見を真摯に受け止め、教育活動の改善・充実に取り組んでまいります。

(3) その他（学校教育活動全般について）

教職員が教育活動に協働して組織的に取り組むことができている。今後も大規模校のよさを活かせるよう、教育活動・行事を工夫していく。

